

はじめに

新岡山県立図書館は二〇〇四年九月に開館しました。早いもので一四年目に入っています。新館計画に携わった一職員として不安を抱きながらの出発だったのを思い出します。もちろん開館までに準備すべきことは全力を挙げて取り組んだ自負もありましたから、県民や市町村立図書館には必ず受け入れてもらえるという自信もありました。ただ、それまでの活動があまりにも低調であっただけに、どうしても後ろ向きの気持ちをぬぐい去れないところがありました。

初日は、午後からの半日だけの開館でした。にもかかわらず驚くほど多くの利用者がありました。そして実にたくさんの方が資料が動きました。新館は、どこでもそうなるとは聞いていましたが、その状況が一週間を過ぎても、一か月を過ぎても続いていく中で、自信は確信に変わっていったように思います。図書館の基本を大切に。一人ひとりの利用者へと丁寧に向き合う。利用者を手ぶらでは帰さない。そうした姿勢で毎日の仕事に向き合いました。

初年度は半年間の開館でしたから、他の都道府県立図書館と数値での比較はできませんでし

たが、県民や市町村立図書館からの手応えで活動度はかなり高いものと感じていました。勢いは月を重ねるたびに増していきました。テレビや新聞などでもたびたび大きく取り上げてもらえました。特に、多くの県民に驚きをもって受け止められたのは二〇〇六年の次の記事でした。

「岡山県立図書館 二〇〇五年度の入館者、貸出冊数全国トップに 岡山県立図書館（岡山市丸の内）の二〇〇五年度の入館者数と貸出冊数が、全国の都道府県立図書館でトップだったことが、日本図書館協会（東京）の調査で一日までに分かった」（山陽新聞朝刊二〇〇六年九月一二日）。

次年度、一年間の統計が集計されてみると、入館者数、個人貸出冊数とも一〇〇万を超え都道府県立図書館比較では一番多い数値でした。何しろ、県総合文化センター時代はどちらも一〇万程度の数値で、四〇位前後というところでしたから、県民にも図書館職員にも驚きでした。以降、毎年、二つの数値は注目を集めるところとなりました。そして、最近の記事では次のように報道されました。

「県立図書館 一五年度入館者数、貸出冊数 一一年連続全国一位 県立図書館（岡山市北区丸の内）は二六日、二〇一五年度の入館者数と個人貸出冊数が全国の都道府県立図書館で一位になったと発表した。いずれも一一年連続。（中略）県立図書館総務・メディア課は『豊富

な蔵書や企画展の充実が利用の増加につながったのではないか。文化・情報拠点として、今後もニーズに沿った運営に努めたい」としている（山陽新聞朝刊二〇一六年八月二七日）。

岡山県に対する国民の認知度は低いと言われていましたから、全国一位を発信できるものがあったことは地域ブランドにつながります。県民も、そういう図書館が岡山県にあること、それを利用できることが誇りであると思います。カウンター越しにもよく話題に取り上げられました。市町村の図書館に出かけてもまずはそれがあいさつ代わりになりました。

ただ、この報道のされ方は、少し困惑を伴うものでもありました。というのも、県立図書館の機能として最も重視しているのは市町村立図書館への支援だからです。市町村立図書館で足りない資料を提供したり、回答が困難な調査相談を代わって回答したりということ。県民が日常利用している市町村立図書館を支援することで、県立図書館の資料や情報は全県民に有効に活用されることになるからです。しかし、テレビや新聞には社会的に一番注目される数字や活動ばかりが取り上げられます。入館者数や個人貸出冊数です。岡山県立図書館にとってもこれはこれで大切な指標ですから大事にしなければなりません。こうした部分にばかり県立図書館は力を入れているのではないか、つまり県民への直接サービスに偏っているのではないかという批判が出てきていたのも事実です。

統計数字は図書館活動の結果です。結果を比較しての順位には大して意味があるわけではあ

りません。順位を競う競争をしているわけではないのですから。県民にどういったサービスを展開してその数字が出たのか、それは望ましい数字なのか。統計数字は、最終的にはそれぞれの図書館の活動内容を評価するうえで重要になるものです。活動内容を評価して、改善すべきは改善してさらにより県民に望ましいサービスを提供していくことに活かしていくものです。

テレビや新聞が順位に焦点を当てて報道するのはある意味仕方がないとしても、図書館がそれに踊らされてはいけません。県立図書館は何を基本にしているのか。今後の進むべき方向をどう考えているのか。そうした部分も丁寧に説明していく必要があります。決して直接サービスに偏った運営をしているのではないことも説明する必要があります。

本書では、図書館界が資料購入費の大幅な削減や正規職員の減少に加え、図書館の運営を営利企業等に代行してもらう指定管理者制度の導入問題などで混乱していたとき、二一世紀という新しい時代に開館した岡山県立図書館が、何を運営の基本に据えたのか、どこを目指していたのかという点を掘り下げてみました。テレビや新聞報道では十分に伝えきれない県立図書館のより正確な姿を伝えることができたいればよいのですが。

情報化時代の今、公共図書館の役割とは

—岡山県立図書館の挑戦—

目次

はじめに.....	i
第一章 がまんの限界.....	1
施設・設備の面.....	2
図書館サービス面.....	8
再編整備検討委員会から答申.....	11
第二章 新館計画は動かす.....	15
二つの基本構想.....	16
突然浮上した建設候補地.....	20
トップダウンの危うさ.....	23
建設準備室.....	27

第三章 待ってばかりじゃられない…………… 33

今できることは 34

コンピュータシステムの導入 36

デジタル岡山大百科 40

児童サービス担当職員の養成 44

第四章 新しい風が吹く…………… 47

建設予定地の見直し 48

基本構想の再編 50

基本計画の柱 54

新規サービス（児童サービス） 57

第五章 ここからが正念場…………… 61

まずは、図書館ネットワーク 62

図書館横断検索システム 65

資料搬送システム	72
人的ネットワーク	76
デジタル岡山大百科の構築	79
新刊図書の七〇%収集	83
児童図書の全点購入	99
主題部門別開架方式の採用	104
第六章 待ちに待った県民の図書館	
岡山県立図書館の誕生	114
一人ひとりを大切に	118
職員研修	120
ボランティアの研修	124
巡回相談	126
中期サービス目標を策定	131
図書館を知ってもらう	136
とことん活用講座	146

学校図書館支援

150

第七章 数字で見る新県立図書館の状況

155

入館者数と個人貸出冊数

156

インターネット予約貸出し

162

図書館への貸出し

165

その他の統計数値

168

レファレンス件数

168

資料収集の状況

169

資料状況

172

デジタル岡山大百科

173

第八章 基本方針—実現できたことと、できていないこと—

179

実現できていること

181

まだ実現できていないこと

192

第九章 いま心配なこと	197
資料購入費が大幅に減少	199
知る自由を保障する図書館として	200
第一〇章 これからの課題 — 指定管理者制度をどう考えるか —	211
県内市町村立図書館の状況	214
指定管理者制度と図書館	219
いわゆるツタヤ図書館	224
指定管理者制度で図書館振興は可能か	228
図書館の力	231
指定管理者より自立の方策を	233
県と県立図書館は市町村立図書館運営の援助を	236
基本を大切にする図書館	240
あとがき	245